

## 生産管理の改善と 経営基盤強化戦略の策定

QCD向上や働き方改革を進めるための生産管理システムの構築に向け、必要となるデータの収集や要件の整理に取り組んだほか、企業の持続的な成長を見据え、今後克服すべき経営課題を明らかにした。

### ▼ 取り組み内容

**Step 1  
現状把握** 眼鏡フレームの製造工程や従来の生産管理手法などに理解を深めるなどして現状を把握。

**Step 2  
課題整理と  
対策立案** AIを活用した生産管理システムの構築を見据え、同時並行で取り組むべき8つの経営課題を抽出し、対策を立案。

**Step 3  
対策の  
推進** 生産管理システムの開発に必要な要件を定義し、ボトルネック工程の作業データの収集から始めるカイゼンのプロセスを企画した。

**Step 4  
取り組みの  
継続** 本プログラム終了後、工程改善のモデル化、全社への展開、品質保証体系の再構築などに順次着手する。



ふくい企業価値共創ラボ 事例  
CASE:

## 次世代型生産管理 システムの構築と 経営基盤の強化

### 受入企業

#### 株式会社 アイビス高島

代表取締役 高島 禎二 さん (写真中央)

専務取締役 高島 功一 さん (写真左)

1990年設立。眼鏡フレームの製造を手がけ、特に装飾性に富み、付加価値の高いものを得意とする。製造には約300工程が必要となるため産地では分業化が進んでいるが、同社では設備投資と人材育成を推進し、一貫生産体制を構築。産地の平均を大きく上回る約80%の内製化率を達成し、顧客の求めるQCD（品質・コスト・納期）に込んでいる。

### 協力研究員

#### 三宅 孝治 さん (写真右)

大阪府出身。大学卒業後、セイコーホールディングスで24年間、国内外のマーケティングや事業会社の経営企画を手がけた後、PEファンドで事業の立ち上げ、事業再生、M&Aに携わる。その後、コンサルティングファームで、経営コンサルティングと人材紹介を担当。直近4年間は事業再生と事業承継の支援を並行して手がけた。

取り組みの成果  
・  
今後の取り組み

- ・製造現場の実情を把握した上で、AIを活用した生産管理システムの構築に向け、進むべき方向性を明確化し、必要となるデータの洗い出し、要件の整理などを進めた。
- ・上記生産管理システムの導入効果を最大限に生かすとともに、企業の持続的な成長を見据え、克服すべき8つの経営課題を抽出し、対策を立案した。
- ・今後、生産管理の改善や経営基盤の強化に取り組み、生産性向上や働き方改革につなげていく。

🏢 受入企業の評価・今後の関わり方

参加理由

- ・眼鏡フレームの製造では職人の手による工程が多い上、工程数も多く、一部の職人や管理者への負荷の集中や、納期遅れのリスクを減らすため、生産管理の効率化が課題でした。そこで、AIを活用した生産管理システム構築を目指し、本プロジェクトに参加しました。

評価（成果・社内変化など）

- ・プログラムを通じ、目標達成に向けた一歩を踏み出すことができました。当社にとって本当に必要なやり方を模索する上で、貴重な指針を得ることができたと思っています。新しいことにチャレンジしたい企業にとっては最適のプログラムだと思います。
- ・AI活用に長けた専門家をはじめ、三宅さんがこれまで培ってきた人脈が、会社の将来にとってプラスになると考えています。
- ・大学との連携は敷居が高く、最適な相談先を見つけるのも難しいと感じていましたが、本プログラムを通じて大学と接点ができたとともに有意義でした。今後新しいことに取り組む際も、力を貸していただくと期待しています。

今後の関わり方

- ・AIを活用した生産管理の実現に向け、引き続き三宅さんと協力関係を継続していきます。当社が直面する課題は三宅さんの指摘と一致しており、これを克服することで、生産性向上、業務プロセスの改善、働き方改革につなげ、業界のロールモデルとなることを目指します。

👤 協力研究員の評価・今後の展望

参加理由

- ・渋沢栄一の「60、70は働き盛り」という言葉を、自身のこれからの人生で体現するため、40年以上にわたる実務経験をアカデミックな観点で整理し、経営コンサルタントとしてのスキルを向上させることができると考え、本プログラムに参加しました。

評価（取り組み・生活）

- ・眼鏡フレームの製造は工程数が多い上に複雑で、その理解に多くの時間を要しました。AIを活用した生産管理システムの構築を視野に入れつつも、その効果を最大限に生かすためには、QCDを基軸に経営の根幹を強化するための8つの経営課題の克服が必須であると分析し、対策とともに経営陣に提示しました。
- ・本プログラムでは、大学での双方向型の講義やゼミでの先生とのコミュニケーションを通じて、専門的な知見に基づいた指導を受けることができ、とても有意義でした。同時に、こうした時間を通して私自身がこれまで培ってきた断片的な知識を学問的な視点から捉え直し、体系化することができました。

今後の展望

- ・アイビス高島の課題は、経営の重要な課題であり、私にとってもやりがいのある取り組みですので、今後も企業の持続的な成長の力になれるよう全力で対応していきます。福井で9日間、東京の自宅ほかで5日間の2週間サイクルで、2拠点生活をしたいと考えています。